

登山月報



I F S C クライミング世界選手権 2016	2
I F S C Paraclimbing World Championships-Paris 2016 大会報告	4
みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山 2016	5
UJAA Joint Expedition 2016 カルリタウ登山報告	6
第95回 Mountain World	8
新連載 「山の日」制定記念 —ふるさとの山を登ろう—	9
平成28年度夏山レスキュー講習会	10
平成28年度自然保護委員総会	11
UJAA MEDCOM MEETING at TELLURIDE UJAA 医療部会報告 ..	12
国体第3期実施競技選定に係るヒアリング報告	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

IFSCクライミング世界選手権2016 ボルダリングで男子金、女子は銀、銅、獲得！

IFSCクライミング世界選手権2016が9月14日(水)～18日(日)にフランス・パリ、ベルシーのアコーホテルズアリーナで開催された。

大会4日目の17日(土)に行われたボルダリング男子決勝で、榎崎智重(20歳)が優勝し、世界チャンピオンのタイトルを手にした。日本選手が世界選手権で優勝するのは、史上初。

16日(金)に行われた男子準決勝では、多くの選手が難課題に苦戦し、完登が0(ゼロ)の選手が半分を占める波乱の展開となった。2完登、4ボーナスの2選手のうちのアダムス・オンドラ(チェコ)がトライ数で準決勝を1位で通過。日本選手は、堀創が5位、榎崎が6位で辛うじて決勝進出。IFSCボルダリングWC2016で2位の藤井快は、完登がないまま12位に終わった。第1課題を最初に完登して観客を沸かせた高田知亮は惜しくも決勝ラインに届かず8位、渡部桂太は19位だった。

17日(土)の決勝では、3名の地元フランス勢の決勝進出で、アリーナを埋め尽くす観客が大声援を送る中、もつれた展開を見せたが、最終課題を1番手の榎崎がフラッシュで登り、後続の選手を振り切って優勝を決めた。2位のアダム・オンドラは3完登、4ボーナスと榎崎と同じであったがトライ数で榎崎が勝った。3位



会場風景

はマニュ・コルヌ(仏)、堀創は6位に終わった。

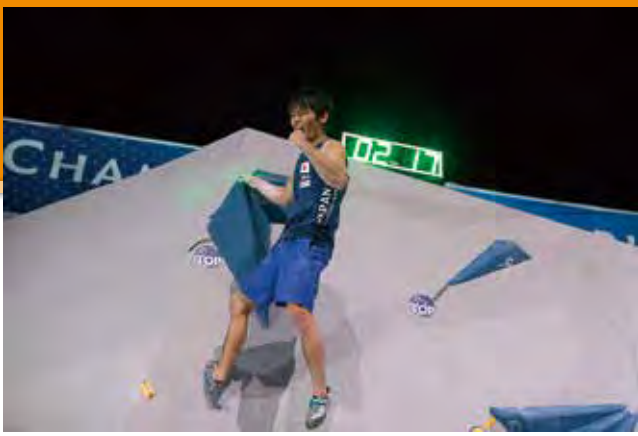
一方、ボルダリング女子は、17日(土)の準決勝で、野口啓代(27歳)が1位、野中生萌(19歳)が2位タイで決勝進出を決めた。

翌18日(土)の決勝では、ペトラ・クリングラー(スイス)と野口啓代のトップ争いとなった。最終課題を完登したクリングラーに対し、野口は完登できず、優勝を逃した。野中は、第3課題終了時5位につけていたが、最終課題で完登を決め、逆転の2位となった。

リード男子では、是永敬一郎が安定感のある登りを見せ、強豪ひしめく中、8位で決勝に進出。18日の決勝では健闘及ばず8位に終わった。

金メダルに輝いた榎崎選手





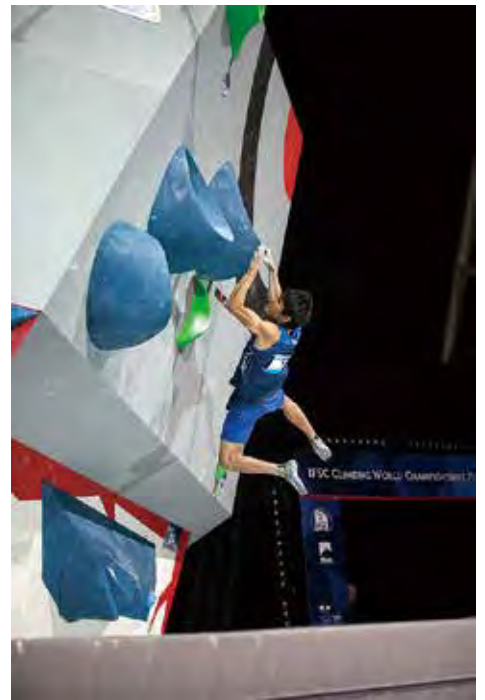
楢崎選手



野中、野口選手表彰台



野中選手



楢崎選手



野口選手



是永敬一郎選手



日本代表チーム

IFSC Paraclimbing World Championships-Paris 2016 大会報告

パラクライミング世界選手権は、今回が4回目の開催で、参加国・選手は20ヶ国77名の選手が参加した。

日本チームは、1月の全日本パラクライミング大会でカテゴリーが3名以上で成立とし、1位の選手を代表に認定し派遣した。内容はブラインドB1クラス・小林幸一郎(前回大会優勝者)、川井雄人。B2クラス・会田祥。神経障害RP3クラス・吉田藍香の男子3名と女子1名。

9月12日、羽田空港から全日本チームと同じ飛行機でパリに向かった。

13日は受付とメディカルチェックを受ける。

14日、予選1が行われた。初参加の高校生B1川井選手は緊張していたが、予選1ルートを完登。他の3名も問題なく完登。これでホッとす。

15日、予選2、これで決勝へ進む4名が決まる。B2の会田選手は余裕の完登で1位通過。B1の小林選手はイタリアのマテオ選手に抜かれて2位通過。B1の川井選手は下部のセクションで惜しくも落ちてしまい5位。上位4人とは力の差はあったように思う。RP3の吉田選手は同率の1位通過となった。吉田選手に関しては、他のチームから成績は1位と伝えられていた。吉田選手から抗議をしてもらいたいと言われたが、他の選手の記録をチーム内で取っていないし、ビデオ撮影もしていなかったため、日本チームで確認ができなかったため抗議はしないで成績を受け入れることにした。

16日、B2とRP3の決勝が行われた。B2の会田選手は余裕の完登。決勝ではもう一人が完登したが、カウントバックで会田選手の優勝が決まる。前回大会はカテゴリーが成立していなかったために1位であったが正式記録には記載されていない。今回は文句なしの優勝である。会田選手はB1クラスを含めても実力はNo1と思われる。



B2 優勝の会田祥選手

RP3の吉田選手は、体の右側にマヒがみられる。決勝の登りは順調に進んだのだが、上部の箇所、右手でつかむと良いホールドを飛ばしてその上のホールドを左手で取りに行こうとしてつかみきれずに墜落。惜しくも3位の結果となった。

17日、ボルダリング男子の決勝のすぐ後にB1の決勝があった。B1選手が登るときにはコーチの声が聞き取れないといけなため、会場はシーンと静かに。この中で小林選手と鈴木コーチとの2人だけのやり取りの声が響いた。フランスのニコラス選手が中央のハング部分を超え上部に迫っていたため、小林選手はそこを超えなければ優勝はないという状況の中、リーチがないのであるが、確実にホールドをとらえハングを超えていった。最後はスローパーが続くが、そこも何とかこらえて、最終ホールドまで迫る。足を決め最終ホールドに手を伸ばすが届かず、もう一度伸ばすがとらえきれずに墜落。でも会場からはそのパフォーマンスに大きな拍手が沸き起こった。パリの観客はパラクライマーにも温かい拍手を惜しみなく送ってくれた。

表彰式は、ボルダリング男子とB1男子が続いてあり、会場には君が代が続けて鳴り響き、日本の活躍・レベルの高さを世界に示した。

18日、最終日はボルダリング女子の決勝とリード男子の決勝そしてAL2(片足欠損)男子の決勝である。AL2はパラクライミングで一番レベルの高い種目でもある。前回優勝のスペインのウルコ選手はまさかの予選落ち。ウルコ選手は普段自然壁で5.13以上のルートを登っている。そのレベルの高さは健常者のクライマーも負けてしまうくらいである。それだけレベルの高い争いが行われた。またこの種目は義足をつけていてもよいこととなっていて、義足装着の選手対義足なしの選手との戦いという構図でもあった。結局義足なしで登ったスペインのGasc選手が優勝。会場からはその登りのパフォーマンスに大きな拍手が沸いていた。

(パラクライミングチーム監督 佐藤 建)



B1連覇の小林幸一郎選手、
2位ニコラス選手、3位マテオ選手

みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2016

今年で7回目を迎えた「てっぺんめざしてワイワイ登ろう！みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2016」が、国立立山青少年自然の家を宿泊地として8月17日（水）～20日（土）の3泊4日の日程で開催された。

17日7時30分、新宿駅西口をバスが出発。途中のサービスエリアで埼玉県からの参加者が合流し富山を目指しました。道中の高速道路においては順調に進むことができ、国立立山青少年自然の家で兵庫県からの参加者が合流し小学2年生から中学1年生までの男子4名、女子5名、合計10名の子ども達が集まった。

開校式では、本木顧問から安全登山心得の話、国立登山研修所の宮崎所長から富山の自然を満喫してほしいとの話があった。

その後、部屋に荷物を入れる間もなく、隣接する「来拝山」へ登った。この山は、標高899mで、ここで立山を拝む「立山信仰ゆかり」の山でもある。かつて、立山が女人禁制だった時代には、女性たちがこの山に登って立山を拝んだといわれている。それほど、ここから眺める立山の姿は美しい。ただし、昨年と同様に曇っており残念ながら眺望することができなかつた。それでも子供たちは、元気に登山をすることができました。

夜のフリーセッションでは2つの生活班を決めた。生活班は学年の枠を超えた4～5名の子ども達で構成され、食事、つどい、見学体験などで行動を共にする。

18日は午前中に立山カルデラ砂防博物館を見学した。博物館の飯田氏による日本初の氷河が立山で確認された話や、立山に見られる動植物の説明も大変勉強になった。また、ピンポン玉を利用した雪崩の実験を体験させていただき子供達だけではなく我々大人も貴



重な時間を過ごすことができた。

その後、徒歩で国立登山研修所に移動し、昼食に美味しいカレーライスをいただいた。

午後からはクライミング体験です。富山岳連の方々にビレー役をお願いし、みんな汗びっしょりになるまでがんばった。中には一番難しいルートをトップまで登れた人もいて、会場は大きな拍手に包まれた。

夕方は、国立立山青少年自然の家に戻り、「おうちへの手紙」を書いた。雷鳥の絵葉書に立山での楽しさをしたため、家族や友達に想いを伝えた。

19日は待望の立山登山の日。天気はガスがかかっていたが、雷鳥やオコジョとの遭遇には絶好の天気で期待をしながら登山をした。今年は、参加人数が少なかったこともあり、全部で2コースに絞った。Aコース1班（5名）雄山（3003m）とBコース2班（5名）は浄土山（2831m）に登り、目標の山に臨んだ。Aコースでは、室堂山荘の先と、一ノ越直下のところで雷鳥と遭遇することができた。

Bコースでは、雷鳥とオコジョに遭遇することができ見つけた子ども達はもちろん、引率の私たちも大喜



雷鳥



オコジョ

びでした。

両コースとも歩行時間は、大人でも5時間弱かかるコースだが、疲れた中でもみんな元気よく登山することができた。

宿泊最終日の夜は、本木顧問の始めの言葉の後、2つの班が中心となったゲームは全員が一丸となって参加できたことでどれも楽しく盛り上がった。とくに目隠しをして顔を描く「福笑い」は子供たちと一緒にスタッフも参加し大いに笑い楽しむことができた。子供たちもスタッフも忘れられない思い出になったことでしょう。

最終日の20日は、記念撮影の後に閉校式。4日間のふりかえりでは、イラストを交えながら頑張ったことや楽しかったことを書いた。その後、本木顧問から一人ずつ修了証と記念バッジが手渡された。

閉校式の後には、「称名の滝」を見学した。この滝は弥陀ヶ原台地の縁から称名川へ、4段350mの日本一の落差を誇る。下界の暑さを忘れる瀑風と水しぶきに歓声が湧いた。見学後、立山駅前で現地合流したお友達と手を振って別れ、バスは帰路に就いた。

ジュニア登山教室 in 立山 2016は、3泊4日の日程中に盛りだくさんのプログラムが組まれている。参加した子ども達から、「立山カルデラ博物館の雪崩の体験が楽しかった。」「特別天然記念物の雷鳥と会えてよかった。」「スポーツクライミングは大変だったけど楽しかった」「友だちを励ましながら登山ができてよかった。」「来年もぜひ参加したいです。」などの感想が寄せられた。

この教室のねらいである「登山や自然との触れ合いを体験し、自然のすばらしさ、登山・スポーツクライミングの楽しさを学ぶ」「子供たちの地域を越えた交流と共同生活により人との触れ合いの楽しさ、団体生活のルールを理解する」「子供たちの自立心を養い、自分で考えその場にあった行動ができる」という目標が達成されたようだ。

最後になりましたが、この活動のために準備段階からご尽力いただきました多くの関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。
(記 中瀬和徳)

UIAA Joint Expedition 2016 カルリタウ登山報告

今年の夏休みは、U A A A主催のジョイント・エクスペディションがカザフスタンのテンシャンであり、日本から6名(女子4名、男子1名)が参加した。

7月22日、ソウルから6時間半のフライトで21時55分、アルマティ着。

7月23日、今日は標高2,200mのカルカラBCまで280kmを車で移動する。途中小さなバザールで西瓜を購入すると、5kgの大きなものが200円。シャシユリクという日本の焼鳥の10倍位の牛や羊の串焼きを食べ、その匂いに中央アジアに来たんだなあ、と実感。原野の中を走りに走って7時間、やっと緑のカルカラBC(2200m)に到着した。途中、以前には無かったキルギスとの国境が有刺鉄線でできていた。テロを警戒してのためだそうだが、たくさんの花が咲くこんな穏やかな大自然には似合わないものだ。心尽くしの美味しいカザフ料理の夕食に、長旅の疲れを癒す。

7月24日、国境を越えてキルギス側に移動し、ヘリコプターで北イニルチュク氷河のBC(4000m)に移動。約40分のフライトは緑溢れる山々をあっという間に超え、茶色になるとすぐ5,6,7000m級の白い山々の連なりが見えてきて、その迫力に圧倒され、魅了される。BCの前は氷河を挟んハンテングリ(6995m)北面で、一瞬にして心奪われる眺めで、私の好きな山No.1なのだ。短い日程なので高度順応のため、まず3時間ほどゆっくり氷河上を歩き、午後からはハンテングリの登り口迄行ってみる。昼間のせいもあるが氷河は溶けているところが多く、何か所も飛び越えるところがある。落ちたら大変だ。

2016年 日本・ネパール外交関係樹立60周年記念特別企画

ロールワリン山群シミガオン村訪問と 名峰ガウリシャンカール展望 7日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡

出発日 11/29(火) 旅行代金 ¥298,000

※燃油サーチャージ(2016年9月20日現在:目安約4,000円)が別途必要です。
今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコフ保証会員

 アルパイン ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

日本山岳会百十周年記念出版

改訂 新日本山岳誌

日本山岳会編 この10年間で「動いた」日本の4000山を、
会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円

インド・ヒマラヤ

日本山岳会東海支部編
この地域の日本初の最新登山記録集成。概説、概念図、写真、
登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円

ヒマラヤの東 山岳地図帳

中村保 地球最後の未踏峰の宝庫(中国深奥部)を多数の写
真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円

606-8161 京都市左京区
一乗寺木ノ本町15
www.nakanishiya.co.jp/

ナカニシヤ出版

TEL.075-723-0111
FAX.075-723-0095
[価格は本体価格]

7月25日、装備点検の後9:00発。4時間半の予定だがゆっくりと氷河上を進み14:30 C 1 (4250m)着。もう先に行ったスタッフが TENT を張っておいてくれた。驚いたことに、TENT の後ろは氷河湖である。トイレに行く時気をつけないと大変。18年前に高度順応で来た時、雪の上にTENT を張ったのを憶えているので、地球温暖化を目の当たりにした思いであった。

7月26日、8:00発。C 2 (4800mアタックキャンプ) に向けいよいよ登りが始まるが、雪どころではなく、ガラガラと崩れ易い薄い岩の連続で、歩きづらいことこの上ない。植物が見えないことから、ここも以前は雪に覆われていたのだろう。2時間ほどの登りで雪壁の下に到着。ユマールを使っても、クランポンが雪壁にきちっときまらず、ざらざらと崩れてしまい100mほどの壁を超えるのに1時間半近くかかった。やっとのことで上がると、すぐだと思っていたC 2が遠くに見え、がっかり。ラッセルしながら進み18:00に到着。明日は登り5時間、下り8時間ということなので食欲も出ないが何とか飲み込み寝ることに。

7月27日、2:30起床。お湯を作るのに時間がかかり4:30出発。夜中に雪が降ったがそんなに寒くない。緩い登りのプラトールをつめ、カルリタウパスに到着。6:30山頂を目指しアンザイレンで雪稜の登りを始める。風が出てくるが思ったほどではない。ところどころ



ろクレバスがあるのでロープが引っ張られたり、引っ張ったりで進むが、調子よく登行を続ける。35度という斜面も、ハンテングリ北東面や前に登ったマールウオール峰(6400m)を見ながら気分良く登り、前に見えるカルリタウが陽に輝いていて、疲れも感じないようである。ところが、3本目の小休止の時、11:00頂上直下にあるあまりに大きいクレバスは、ここ数年超えていないということで、ここから戻ることになる。(登頂証はBCでくれた。)今日中にBC迄戻らなければならぬことを考えると下りは何時間かかるのだろうか、急がなければならない。パスまで転げるようにして下り、やっとロープを外すといろいろな重みがとれたような、そしてちょっと気が緩んだような気がした。C 2まで殆ど食事もとらずに歩き、やっとラーメンを口に入れることができた。16:00下山開始。途中、あの雪壁を今度は皆んな順調に下りたが、私は後で崩れやすい岩に転び、足を打ってしまい、氷河を歩くのに時間がかかり、暗い中BCに戻ったのは22時過ぎになってしまった。今日の行動は18時間! 疲れた。コーラを飲むだけで何もせず就寝。

今回のエクспедиションは、台湾やイランからの参加者もいたのだが、短い期間であり話し合う時間的な余裕がなかった。またこういう機会があったら、もっと日程的に余裕のあるほうが良いのではと思った。それにしても、テンションはいつ行っても心休まるころだ。
(坂上光恵)

バインター・ブラックII峰の遭難

池田常道

カラコルムのラトック山群は、日本人にとってなじみ深い場所だ。ピアフォ氷河とチョクトイ氷河に挟まれたこの花崗岩峰の連なりは、バインター・ブラック（オーガ、7285 m）を盟主として3つの7000 m峰を有し、1970年代後半に至るまでどれひとつとして登られることがなかった。バルトロ氷河に面するトランゴ岩頭群と共に存在は知られてきたが、8000 m峰や7500 m以上の高峰の初登頂が注目された時代、このような険しい岩峰に挑む機運はまだ高まっていなかった。

その先鞭をつけたのは、1974年にバインター・ブラックを試みた静岡登攀クラブ隊（秋山礼佑隊長）である。翌年には日本山岳会東海支部隊（原真隊長）がラトックI峰（7145 m）を、登攀倶楽部京都隊（高田直樹隊長）が同II峰（7108 m）をそれぞれ試みた。76年には朝霧山岳会隊（西原正隊長）がバインター・ブラックの6500 mに達したほか、泉州山岳会隊（宮平良男隊長）がラトックI峰、山岳同人東京隊（永坂末男隊長）が同II峰を試みた。そうこうするうちに77年、バインター・ブラックは英国のクリス・ボニントンとダグ・スコット、ラトックII峰はイタリアのアルトゥーロ・ベルガマスキ隊の手に落ちた。後れを取った日本隊は79年、高田直樹隊長のピアフォカラコルム登攀隊がラトックI峰を、寺西洋司隊長の広島山の会隊が同III峰（6949 m）に初登頂して面目を保った。

これらの初登頂はいずれもピアフォ氷河側から行われたが、その後興味はチョクトイ氷河側に移る。ジョージ・ロウら4人の米国隊は、78年にカプセルスタイルでラトックI峰北稜を攻め、20日間で頂上直下150 mに迫った。この北稜はその後何度も挑戦されてきたが、いまもって完登されていない。他のピークも含めてこちら側の壁で成功したのは、2012年に米国のカイル・デンプスターとヘイドウン・ケネディがバインター・ブラック南壁を登っただけである。

そのデンプスターが8月末、スコット・アダムソン（米）とバインターII峰（オーガII峰、6980 m）北壁に向かったまま消息を絶った。バインター主峰とラトックI峰に挟まれたこのピークは韓国隊が固定ロープを用いて西側から初登頂したが、その北壁はアルパイン

スタイルの対象として最近注目されていた。デンプスターとアダムソンは昨年これに挑んだが、6600 mまで登ったところでアダムソンが転落、足を骨折したため断念していた。今回二人は8月21日にチョクトイ氷河のBCを出て取付き、2日目にコックのアブドウル・ガフルがルートの中ほどに行くヘッドランプの灯りを視認したものの翌日から天候が悪化し、25日の下山予定日を過ぎても消息はなく、遭難したものと推定されている。隣のラトックI峰に挑んでいたドイツのトーマス・フーバーもパキスタン陸軍のヘリに同乗して捜索したが無為に終わった。万一、登攀後反対側に下降したかも知れないと、装備を携えたポーターの一団がピアフォ側へ派遣されたが、空振りに終わった。

デンプスターは米ユタ州のクライマーで33歳。2008年にヒスパ氷河のタフ・ルタム（6651 m）西壁に単独で挑み、21日間で6500 mに迫った。09年にはブルース・ノーマンド（英）、ジェッド・ブラウン（米）と中国・新疆の雪蓮西峰（6422 m）を初登攀してピオレドールを受賞。12年にはヘイドウン・ケネディ（米）と組み、K7（6934 m）東壁に引き続いてバインター・ブラック南壁を登って2回目の受賞をしている。10年には再びノーマンドと中国へ行き、四川省のエドガー（6618 m）南壁を登っている。

アダムソンもユタを本拠とする、1歳年上の34歳。ザイオンでムーンライト・バットレス（5.12 d）をオンサイトしたほか、氷とミックスのルートを拓く一方、2013年5月にはクリス・ライトとアラスカのムースズ・トゥース東壁で2本の新ルートを登った。その年の秋にはライトとネパールへ行き、ルーナク西峰（6507 m）とパンブク北峰（6589 m）の初登頂をものにした。2014年にはアラスカ・ハンティントンのイデオット・ピークに1500 mの新ルートも拓いた。



エドガー南壁上部を登るデンプスター

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

岡山市内南東部 操山(みさおやま)

この「操山」は、岡山市街地中心に近くありながら豊かな自然が息づくオアシスを形成しております。岡山市市内電車・東山電停が西の登山口となり、主稜線を歩いても約6 kmで東部・百間川(市内を流れる旭川の排水路)に到達出来ます。標高は僅か169 mながら、中央部北部の沢田部落が「筍の産地」と「富有柿の産地」として古くから人間と自然が調和した「里山」が形成されてきました。

そして、歴史の名残を残す各種の古墳は100基余を数えます。山の裾野には有名な寺社仏閣が点在し、現代でも修練道場として多くの人々引きつけています。四季折々の豊富な植物や野生小動物、野鳥たち…。

人と自然が仲良く共存する「操山」は、森林浴、ハイキング、豊富な植物観察、古墳巡り、バードウォッチングなどなど、自然とのふれあいが楽しめるフィールドです。

岡山市公園協会が中心となって、平成11年に「豊かな自然と里山の暮らしに触れあおう」を合い言葉に、操山中央部・沢田部落に「操山公園里山センター」を建設しました。敷地1.3ヘクタールに(里山センター、里山農園、炭焼小屋、多目的ふれあい広場などなど)、建物920㎡には(100人収容の多目的ホール、ふれあいスペース・展示物、30人収容の会議室、ボランティア室、調理室などなど)が出来上がり、色んなイベントが展開されています。特筆すべきはボランティアによる行事プログラムの数々です。

その一部を紹介しましょう。

- 操山を楽しく歩くプログラム。／7講座。
- 操山の自然を知るプログラム。／8講座。
- 里山を楽しく体験するプログラム。／14講座。
- 里山を楽しく学ぶプログラム／2講座。
- 環境教育プログラム／1講座。
- 季節のイベント・・・などなど。／適宜。

里山センターの活動も設立から17年になり、各講座には固定客が出来、休日の講座などは定員オーバーになることもあるようです。

私達、岡山県山岳連盟の活動で「ジュニア委員会」の活動など、昨年度「操山」を歩きましたが、里山センターのノウハウを活用、提携するこ

とによって密度の高い活動が可能となると考えます。

(記 岡山県山岳連盟会長 大森武生)



百間川から南に西から東へと広がる



操山公園里山センター



案内板

第3回海外登山懇談会のご案内

- 日時** 2016年11月17日(木) 19時~21時
(開場18時30分)
- 会場** 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟304号室 <http://nyc.niye.go.jp/>
- 参加費** 500円(予約不要)
- 内容** 講演会「働きながら海外の山へ」
「私の海外登山・山スキーの旅—山と仕事と」(坂上光恵講師)
「子連れだからこそ海外へ!家族で楽しむアメリカクライミング」(山岸尚将講師)

平成28年度山岳レスキュー講習会（無雪期）は、富山県の国立登山研修所にて、9月9日（金）～11日（日）の2泊3日の日程で開催された。事前の予報では雨の中での実施も予想されたが、当日は小雨がぱらつく時もあったが、概ね曇天で比較的涼しい状況での講習実施となった。受講生42名の参加を得て、講師・スタッフ18名の陣容での開催となった。講習は、ハイキングレスキュー、クライミングセルフレスキューA・B、及びワークレスキューの4班に分かれての講習となった。ハイキングレスキュー及びクライミングセルフレスキューの班では、登山者が自身のパーティーまたは他パーティーの事故に遭遇した時に対応できる種々の技術を学んだ。

ハイキングレスキューでは、一般登山道における登山者の傷病に対応できるように傷病者の搬送や応急処置、ビバーク時のツェルトの取り扱い方などを学んだ。応急処置の講習では、ケガを模したメイクアップをしたスタッフを相手に処置をするなど臨場感あふれる講習となっていた。さらに、事故を未然に防ぐために、危険個所の通過に使えるロープを用いた歩行補助などの基本的なロープワークも学んだ。講習の最終日には、登山道で発見した傷病者を応急処置後に搬送するシミュレーション実習を行った。

クライミングセルフレスキューでは、ロッククライミング中に岩場で事故等のため宙づり状態で動けなくなったクライマーをパートナーが一人で救助する方法を学んだ。クライミングセルフレスキューA班は、そのための基礎技術を習得するコースとなっており、クライミングセルフレスキューの入門部となっている。事故クライマーの荷重を岩場のアンカーに移してビレイ体制から解放される技術、事故クライマーのところまで安全を確保したままでロープをたどって登る技術、支点を構築する技術、事故クライマーを収容しながら下降する技術につ

いて順を追って学んだ。最終日には、各受講生はこれらを一連の流れで実施するまでに至るようになった。

クライミングレスキューB班は、既にA班で講習する個々の技術を身に付けている受講生が、傾斜も高さもある岩場でシミュレーションを中心に救助の一連の流れの中で技術を高めていく講習を行った。受講生はリピーターや経験を積んだ方も多く、情報交換等で研修を有意義なものにしていた。

ワークレスキューは、各地の消防士や警察官を中心にした受講生を対象に、山岳地での組織的救助活動について講習を行った。他の班では登山者のセルフレスキューということで持ち合わせの装備で対応する講習となっているが、ワークレスキューの場合はロープウインチやレスキューハーネスなど救助活動に特化した装備を使うことが特徴である。基礎的技術の講習から実際の岩場でのチームでの連携を意識した実習を行い、最終日には傷病者2名を救助するシミュレーション実習を行った。

3日間の講習を通して、各講習生が目的に合った技術を身に付けていただいたものと思える。

（遭難対策委員会 服巻辰則）



セルフレスキューA



ワークレスキュー



セルフレスキューB

平成28年度自然保護委員総会 (第40回記念山岳自然の集い中央大会)

平成28年度自然保護委員総会が、9月3日(土)～4日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターで、25都府県から72名が参加して開催された。今回の開催は常任委員及びその出身団体から募った28名のスタッフで運営された。第1日目は開会式のあと基調講演と総会(参加都府県の活動発表を主体)、第2日目は分科会討議とフィールドスタディーが行われた。開催概要を次に示す。

(第1日目)

13:30から開会となり、冒頭に行われた主催者挨拶で、八木原会長から、今大会への参加に対し歓迎が述べられるとともに、スポーツライミングが東京五輪の競技種目となったことに触れ、日山協に対する世間の注目度が一層なものとなって、各種課題解決に向けた一層の組織努力への邁進が表明された。

引き続き行われた基調講演では、小林篤氏(東邦大学研究員地理生態学研究室訪問研究員)から「山岳自然とライチョウの保護活動の現状」を演題として約1時間の講演を拝聴。近年、生物多様性の劣化改善に向けた緊急課題として絶滅危惧種の日本ライチョウの実情について聴取を行った。日本を南限とするライチョウ(雷鳥)、かつては、「鶉(らい)鳥」と記すほど山岳文化には因縁がある。ここで説明するライチョウは北海道に生息するエゾライチョウとは外見やDNAとも異なり、夏毛と冬毛が生え替わる種で、アイスランド・スカンジナビア半島・シベリアに生息するLagopus属。近年の温暖化や生態系の変化などの影響により、生息数の減少が危惧されている。特にキツネ・テン・鳥などの生息地への侵入により、卵・雛の摂食被害による数的現象が緊急課題となっている。この種の保全に向け、域内・域外の双方の手法が実践的に研究されてきており。演者が専ら研究する域内保全では乗鞍岳や北岳でのケージ(保護用鳥籠)法を用いた雛と親鳥の保護が、幾度もの調査で得た損失率の高い6月頃の孵化期から約1か月について、保護を実践し、有望な成果を得、今後の展開が期待できるに至った。

基調講演のあと行われた総会議事では、日山協自然保護常任委員会の活動報告のあと、参加都府県の夫々から前回総会以降の1年間の活動報告が行われた。この報告時間は4～5分ではあったが、25都府県の自然保護活動やその動向が周知された。熱気あふれる議事も17:45予定通りの閉会となり、集合写真後、宿舎に入り、

その後の夕食会へと流れた。

(第2日目)

朝食後、3課題に分かれて分科会形式で開催、約1時間の討議が行われ。その後に合同会議にて分科会のまとめをおこなった。それぞれのタイトルは、①「オーバーユースとトイレ問題、入山料等について」、②「稀少植物の保護、植物の多様性維持のための活動について」、③「自然保護指導員の活動について」とし、熱心な討議が行われた。①では登山者の集中によるオーバーユースとこれに関連するトイレ問題や「その対策としての入山料徴収」などについて、②では希少植物の保護の必要性と、保護活動に向けたボランティアの推進について、③では日山協自然保護指導員規程の第1条(目的)に、自然保護憲章の精神に則るとあるが、指導員不在の県等もあり憲章の精神が浸透していないと推察でき、自然保護指導員制度とその活動のあり方について意見を探る。…とした。

昼食後、2.グループに分かれ、「明治神宮の森」及び「国立博物館自然教育園」へ出かけ都会地に残された人工の森を題材として、フィールドスタディーを行った。「明治神宮の森」では造営開始から100年で極層林へと遷移が進んだ常緑闊葉樹の巨樹の森を、「自然教育園」では、東京都心にながら自然状態の常緑広葉樹林が残され、20ヘクタールの園内では1436種の植物、2130種の昆虫、130種の鳥類と豊富な動植物を擁している。フィールドスタディーで自然保護常任委員が説明に立ち、自然美再生に向けた人工的な成果の一端を紹介した。

総会閉会后、希望者によりオプション山行として、埼玉県山岳連盟の支援の下で、両神山へ1泊2日のオプション登山を行った。両神山の白井差新道を地主であり小鹿野町会議員でもある山中豊彦氏の案内にて両神山登山を行い、山中氏自身から自然解説を受け、全日程を終了した。



UIAA MEDCOM MEETING at TELLURIDE UIAA医療部会報告

UIAA医療部会年次集会は、今年は8月4日、米国コロラド州にある冬場はスキー、夏場は避暑地で有名なTELLURIDEで行われた。この会議には写真にある各国代表が参加した（日本からは増山と上小牧が参加した）。議事は以下の通り。

1. 新しいUIAA-Medのpresidentに、George Rodway (USA)が選出された。前委員長David Hillebrant(UK)は、ご苦労さまでした。

2. 各国報告に関する討議

Sweden, Germany, Japan, UK, Canada, Nepal, Italy, Czech, Brazil, USA, Netherland, France, Norway, Spain, Argentina 計15か国から報告があった。うち9か国が欧州勢であり、世界の趨勢をここでも表している。奇しくも同日に正式決定が行われた東京2020年オリンピックでの追加協議種目となる(UIAAのNews Letterがtopで取り上げていた)スポーツクライミング種目について報告した。Sport Climbingは、UIAAが所管する種目ではないが、Ice Climbing競技を2022年の北京冬季オリンピックの正式種目に取り上げてもらおうとしているUIAAはこれを追い風にしようとしている。そのためにも、UIAA-Medとしては、sport & ice climbingに共通する、medical regulationをまとめようとしている。日本もこの策定に当たり応分の協力を求められることとなる。

3. UIAA Advice and Recommendationsについて

http://theuiaa.org/medical_advice.htmlに現在23項目目示されている、Advice and Recommendationsについて、提案があり解決策が討議された。

- A. updateせねばならない項目が多くある。
- B. 新たに付け加える項目のリストアップと整理が必要。Sport Climbingに伴うリスクも要求される。
- C. すべてのpaperはしかるべきjournalにアクセプトされるレベルであるべき(そうでないものもある)。
- D. 薬物使用に関する論文はHAMBにアクセプトされたばかりで、これはよかった。

4. Social media update Website updateについて。

5. 副委員長については、Thomas Kupper (Germany)が承認された。

6. 昨年のUIAA-Korea総会の報告

7. 新委員長、George Rodway (USA)の抱負

A. IKAR, WMS, ISMMの三つの組織との連携を大切にしたい。



B. 学問的な側面と実際の現場の課題を融合させたい。
C. インドやネパールでの国際的活動をきちんと組織したい。

8. 次回の会議は、2017年3月27-31日に行われるネパール登山医学会議に合わせて行う。

(医科学委員長 増山 茂)

国体第3期実施競技選定に係るヒアリング報告

9月15日に国体第3期実施競技選定に係る日本体育協会のヒアリングが岸記念体育会館行われた。日体協側は、荒川昇国体委員会副委員長、松丸喜一郎ワーキング座長(JOC常務理事)、大橋卓弁護士、岩田史昭国体課長。日山協からは尾形副会長、森下競技部長、西原競技運営委員長が出席した。

まず、本協会からジュニアの育成強化及び女性アスリートへの対応と組織のガバナンス等についてプレゼンを行った。

現在、スポーツクライミングが世界のトップクラスで活躍できるのは、国体で全国へ競技普及が成されたことが土壌にあり、第57回高知国体、第63回大分国体が大きな転機となっていることを説明した。

ヒアリングは、事前に提出した回答書に沿って進められ、幾つかの回答については、好意的に良い方向へ変更を求められた。

競技者育成プログラム、組織のガバナンス対応、役員選考、アスリート委員会等について評価を頂いた。また、強化育成をなすのが、「指導者育成プログラム」であるとのコメントもあった。

今後の要望として競技名を「スポーツクライミング競技」に変更すること、少年種別を中学2年生から実施する事をお願いした。競技名は、法人名からつけているので、法人名称が変われば変更し易いとの事。



平成28年度(28年9月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成28年9月8日(木)
連絡部会 18時～19時50分
常務理事会 19時50分～21時

場所 岸記念体育会館・4F 特別会議室

出席者 八木原会長、尾形・高橋・亀山各副会長、小野寺、西内、森下、瀧本、仙石、水島、中瀬各常務理事、相良財政理事、小日向選手強化、澤田委員長、中島監事

委任 國松副会長 京才常務理事、増山理事・医科学委員長、西原競技運営、山本技術(審判)、松隈自然保護、角田A Dの各委員長(22名中 15名出席)

1. 議事

- (1)平成28年度8月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)
事前送付で確認されており承認された。
- (2)臨時理事会議事録承認について
事前送付で確認されており承認された。
- (3)臨時総会へのステップと各岳連への送付アピール文面案について
資料に基づいて提案説明があり、修正して再度提案することで、了承。
- (4)パブリックコメントについて
資料に基づいて提案説明があり、修正して再度提案することで、了承。
- (5)アジアユース派遣選手について
提案通り、10名の選手の派遣が承認された。
- (6)B J C 予備予選会について
提案通り、承認された。
- (7)S C 指導員・上級指導員講習会追加について
瀧本常務理事より年度計画にはなかったが、山口県で開催したい旨の提案説明があり、承認された。
- (8)国体競技規則集の印刷について
当面必要な部数のみ印刷することで、承認。
- (9)ブロック別研修会実施要項について
資料に基づいて提案があり、一部訂正の上、承認された。

2. 報告事項

- (1)8月度会計月次報告について
相良理事より資料に基づいて説明された。小野寺事務局長からは今年度のJ O C 補助金が増額になるとの報告があった。詳細は今月中に判明とのこと。
- (2)熊本地震義援金について
八木原会長から9月7日に熊本岳連へ8月末までの義援金869,634円を届けてきた報告があった。
- (3)岸記念体育会館警備強化について
小野寺事務局長が資料に基づいて説明され、8時30分から21時の間、地下駐車場からの出入ができないとの事。
- (4)ジュニア登山教室について
西内部長より報告があった。参加者は9名とのこと。
- (5)マイナンバー取得外部委託と源泉徴収書について
小野寺事務局長よりマイナンバーの保管管理をセコムに外注する旨、報告があった。
- (6)B J C 実行委員会報告
森下部長が資料に基づいて報告した。
- (7)国体マスコミ対応について
森下競技部長から国体のマスコミ対応に

- ついて説明があった。
- (8)指導員制度改革に関するアンケートと回答について
瀧本指導委員長から資料に基づいて説明があった。日体協も国際的視野に立って資格の名称変更を考えているとのこと。
 - (9)選手強化委員会よりの報告
8/31～9/1に行った、世界選手権の強化合宿の報告があった。
 - (10)諸規程について
次の理事会に組織・管理運営規程の改訂を諮り、承認を受けてから規程集に製本して配布したい。
 - (11)公募型の登山ツアーについて
参加費に含めてバス代、宿代を集めて、一括手配を行うと旅行業法違反になるので、事業を行う場合は要注意とのこと。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1)S C コーチ認定について
受講者数11名中、以下の8名の合格が承認された。
目次容子(千葉)、阿部雅史(千葉)、米津篤司(富山)、正田信一(大阪)、清水宏明(東京)、柘植求(群馬)、山田雅之(秋田)、奥井健吾(京都)

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)アウトドアピレジックカップ後援
- (2)神奈川県民登山後援
- (3)大阪第10回生駒チャレンジ登山後援
- (4)第3回大学スポーツクライミング選手権後援
- (5)アイスクライミングチャンピオンシップ・ミレール大会後援
- (6)第5回N S C A 後援
- (7)「Tokyoどこでも競技場プロジェクト」協力依頼
上記(1)～(7)に関して異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

- 8月(8月12日～9月5日)
- (1)ジュニア・普及委員会
8月3日(木) 出席5名
ア)ジュニア登山教室 in 立山の準備について
 - (2)国際委員会
8月8日(月) 出席10名、委任2名
ア)第3回海外登山懇談会について 11/17(木)、国立オリンピック記念青少年センター・講師案:坂上光恵(J A C 千葉支部会員 聖徳大学附属女子中等学校兼任講師)、山岸尚将(チーム84/ C C 蒼氷)
イ)国内外に向けてのHP案について
国内向け「①海外からの案内」「②海外登山地最新情報」「③海外登山の手続きガイド」
外国向け「④About Japanese Mountains」「⑤Mountain Area Information」
⑤については、現存する外国語対応サイトへのポータルサイトにする方針。
④は笹生委員がたたき台を作る予定だが、次回以降、内容も詰めていきたい。
ウ)山岳スキー競技部門の立ち上げについて
国際委員会の事業として来年度の大会開催を目指したい旨、澤田より説明があった。
 - (3)自然保護委員会
8月18日(木) 出席15名
ア)第40回自然保護委員総会について
・参加受付状況、準備状況、担務、タイムスケジュール、分科会各グループテーマの抽出及び集約について
イ)情報交換・連絡事項
 - (4)指導委員会
9月5日(月) 出席13名 委任3名
ア)夏山リーダー検討会報告(8/30)

- ・テキストアウトライン作成
- イ)指導・遭対合同研修会報告
・参加者29名、指導、遭対のロープ結束の考えの違いの確認。
- ウ)S C 指導者養成講習会報告
①茨城(S C 指導員)7/9-10、8/20-21
②宮崎(S C 上級)10/22-24
③近畿ブロック(S C 指導員)10/25-26、10/29-30
④富山(S C 指導員)11/19-20、11/26-27
⑤北海道(S C 指導員)9/3-4、11/26-27
⑥中国ブロック(山口:S C 指導員+上級)10/29-30、11/19-20
- エ)日体協・スポーツ指導者アンケートについて
- オ)登攀技術研修会について
10/1(土)-2(日)、宿泊:大村ヤスタオーシャンホテル
- カ)S C コーチ専門科目採点状況
- キ)S C 指導員養成講習会・中国ブロック合同開催について
- ケ)夏山リーダー検討会について
9/27(火) 19:00～場所:都岳連会議室
- (5)競技部 競技運営委員会
8月18日(木) 出席14名
ア)岩手国体準備状況について
・実施要領・競技役員全体会議の時間変更に伴う表記について
・メディア(広報)対応について
・抽選会について(9/4、10時集合)
- イ)競技部ブロック別研修会について
・C級審判員認定研修
・競技運営、指導者研修
※従来の国体運営研修を、単年度3ブロックとして「指導者対象研修として実施」(案)
・国体競技運営員認定研修
・その他、アンチ・ドーピング研修会を単年度3ブロックとして実施。
- ウ)愛媛県岳連より競技運営委員会常任委員派遣依頼について
・松本一志競技委員長推薦
- エ)第73回国体(福井国体)以降のリハーサル大会について
- オ)報告事項
①国体第3期実施競技選定に係る日体協ヒヤリングについて
- カ)第77回国体正規視察について
・10月13日(木) 森下競技部長、西原派遣
- キ)第72回国体(えひめ国体)リハーサル大会名称について
・「スポーツクライミング第31回リードジャンカップ」
・石鎚山カップ・ボルダリング大会—
愛顔つなぐ愛媛国体山岳競技リハーサル大会
第72回愛媛国体実施要項作成依頼について
- ク)第74回茨城国体競技日程調査について
・平成31年10月4日～10月6日(3日間)確認・報告
- ケ)日本体育協会の名称変更に関する調査について
- (6)競技部 競技運営委員会
9月3日(土) 出席14名
ア)岩手国体準備状況について
・「ユニフォーム」への質問について
・国体質問票「帯同トレーナー」の行動について
・実施要領について
・競技役員全体会議の時間変更に伴う表記について
・メディア(広報)対応について
・資格審査結果について
・抽選会について(9/4、10時集合)

- イ) 第72回愛媛国体山岳競技実施要項(案)について
- ウ) 競技部ブロック別研修会について
 - 九州ブロック(長崎県岳連主管)より、開催日程の変更申し出(3/11-12へ)
- エ) 国体競技規則集の発行について
 - 収録する内容規則の整理と規則改正の有無
- オ) 第73回国体(福井国体)以降のリハーサル大会のあり方について
- カ) その他
 - 審議事項多岐に伴う、10月20日(木)の臨時委員会開催について
- (7) 遭難対策委員会
 - 8月31日(木) 出席12名
- ア) 指導・遭対合同研修の報告
 - 指導と遭対で指導内容が違うため確認を行った
 - 指導は技術の検定を目的として、遭対は救助の流れを目的としているため内容が違う。
 - 今後はその技術を教える前に違いの説明をする。
 - 制動確保として意図的に流すことをなぜ教えるのか? スポークライミングやフリークライミングでこういう止め方をしていくからという理由はアルパインクライミ

- ングとして教える場合の説得力に欠ける。
- 本来は支点にかかる負荷を減らすためであるが、そういう支点を使わないように教えるべき。
- そういう支点の場合の制動確保の優位性はわかるが初心者に教える必要があるのか?
- 最近のビレイデバイスは一定以上の力がかかると墜落者に負荷がかかりすぎないように流れるようになっている。
- 遭難対策としての見解をまとめて指導と話し合う。
- 1) 夏山リーダー資格に関して
 - 日体協の資格基準が変更になる案が出ている。
 - 名前がコーチとなり、コーチ1、コーチ2、3、4、5と5段階になる。レベルは指導員が2、上級が3になる
 - 夏山リーダーをコーチ1の専門に該当させるという案があるが、専門の講習時間が7時間と大きくかかっている。
 - 夏山リーダーのシラバスの大項目、中項目がまとまった。これから小項目、内容と進む。
 - 計画から宿泊までを指導が、セルフレスキュー以降を遭難対策が担当する。
 - テキストは文面を年度内にまとめ、来年度予算で印刷する。
 - 10月8日~10日に西内委員長がステイプロングに会いに行くついでに内容を確認

- するために国立登山研修所に行く。
- 安全登山教室の本が在庫がないため500部増刷する。
- 24) 無雪期レスキュー講習会について
 - スタッフ配置及び準備・手配
 - 講師18名、受講生38名で確定とする

6. その他の重要事項

- 8月5日~9月7日
- (1) 噴火時等の手引き作成委員会 8月5日(金) 於: 中央合同庁舎8号館 尾形副会長
- (2) インターハイ登山競技大会参加
 - 8月5日(金)~10日(木) 於: 岡山県・蒜山、八木原会長、國松副会長、小野寺事務局長
- (3) 祝日「山の日」記念「山の日の歌」発表会
 - 8月8日(月) 於: ホテルグランドパレス 尾形副会長
- (4) 第1回「山の日」記念全国大会
 - 8月10日(水)~11日(木) 於: 松本、上高地 八木原会長、尾形副会長
- (5) 第19回JOCジュニアオリンピックカップ
 - 8月13日(土)~15日(月) 於: 富山県南砺市 八木原会長、森下部長、他
- (6) ルートセッター研修会
 - 8月16日(火)~18日(木) 於: 富山県南砺市 山本委員長、他
- (7) ジュニア登山教室 in 立山
 - 8月17日(水)~19日(金) 於: 国立立山自然青少年の家 本本顧問、西内部長、中瀬委員長、他
- (8) 臨時理事会
 - 8月27日(土) 於: フォーラムエイト 八木原会長ほか
- (9) 選手強化合宿・記者会見
 - 8月31日(水)~9月1日(木) 於: B-Pump 荻窪店、ナショナルトレセン 尾形副会長、森下常務理事、小日向委員長
- (10) 日本山岳写真協会表彰式
 - 9月3日(土) 於: 上野精養軒 八木原会長
- (11) 第40回自然保護委員総会
 - 9月3日(土)~4日(日) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原会長、松隈委員長
- (12) 第71回岩手国体組合せ抽選会
 - 9月4日(日) 於: 岸記念体育会館 尾形副会長、森下競技部長、京才副部長、西原委員長

寄贈図書

寄贈本	宮本数男	「ふるさと福井の山」 宮本数男著
	ナカニシヤ出版	「京都府山岳総覧」-京都府339山案内 内田嘉弘・竹内康之 編著
雑誌	(株)山と溪谷社	「果てしなき山稜-襟裳岬から宗谷岬へ-」 志水 哲也 著
	(株)山と溪谷社	「マタギ奇談」 工藤 隆雄 著
会報	山と溪谷社	「ROCK&SNOW」 073
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.832 2016.10
会報	山と溪谷社	「山と溪谷」No.978 2016.10
	Red Fox	「Red Fox outdoor equipment」 2016 No.12
会報	横浜山岳会	「山」1011号 2016年9月
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》254
会報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第591号
	モンベル	「OUT WARD」No.72
会報	mountainkorea	「人と山」No.323
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」
会報	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.461
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアレインニュース」2106年8月29日号
会報	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第538号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2916.10・11
会報	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」2106年8月29日号
	三峰山岳会	「岩つばめ」351号
会報	中国登山協会	「山野 CHINA OUTDOOR」 総第217期
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.323
会報	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.27 2016 09-10
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2016.9
会報	Korean Alpine Federation	「大山聯」2016 September Vol.213
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第326号
会報	長野県山岳協会	「やまなみ」No.222
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.500
会報	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアレインニュース」2016年9月12日
	(公社)日本山岳会	「山」No.856
会報	東京野歩路会	「山嶺」No.1039
	大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.118
会報	(公社)日本山岳会	「山岳」2106年 Vol.111
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.682
会報	常北山水会山岳部(助川 勉)	「山水」第42号

編集後記

スポーツクライミングが東京2020オリンピック大会の追加種目に決まってからTVに取り上げられることが多くなった。極めつけはNHKで放映された世界選手権パリ大会で本紙でも掲載の通りであり、そのパフォーマンスはまるで忍者の様だ。若手も伸びてきており今後の日本チームの活躍が期待される。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第571号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)
 発行日 平成28年10月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanazawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四時「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanazawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常単行本12冊

8,160円(税込8,127円)

年間購読12冊

7,480円(税込7,379円)

1冊680円

1冊分無料

年間購読特典

岳人オリジナル
コンパクトフォームパッド

年間購読者
お申し込みの
お名前を
プレゼント



使用サイズ
230x140x0.8mm



11月号
1075円(税込)

「岳人」2016年 11月号

【特集】日本の山③ 屋久島

【特別写真】石川順樹「アジアの山に生きる」
／竹田津実「オホーツクの村物語」／とって
おきの山歩き／読者投稿

通常680円(税込)

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアで購読
いただけます！

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイト
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で (受付時間内にお申し込みください)
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6438-5797
※お申し込みの際は、必ずお名前と住所をお知らせください。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

初めて、
という不安。

ここから始まる、
という希望。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上

www.ms-ins.com

広告掲載のお願い

MS&AD

三井住友海上

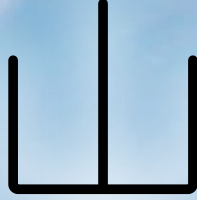
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます